

弘前市立博物館 ニュースレター

No. 10

令和6年3月号

Hiroaki City Museum Newsletter

■年度末となりました

3月も後半に差し掛かりました。今月は2月の暖かさとはうって変わり、寒の戻りもあって本格的な春の到来が待ち遠しくなるような一か月でした。また、年度替わりということで…博物館でも人事異動による職員の入替えなど、新年度から環境の変化があります。本号では博物館から異動する職員から一言ずつご挨拶をさせていただいております。ご一読ください。

ところで、博物館では3月1日(金)から令和5年度企画展4「雛と兜」をスタートしました。会期は5月6日(月・振休)までとなっております。本展は雛人形や雛道具、五月人形、甲冑などを展示している企画展です。雛祭りは終わってしまいましたが、今後のさくらまつりやこどもの日にも楽しめる華やかな資料を展示しております。くわしくは本号の特集記事をごらんください。皆様のお越しをお待ちしております。

(館長 熊谷)

■企画展4「雛と兜」開催中！

企画展 4「雛と兜」は、その名のとおり、雛祭り(桃の節句)とこどもの日(端午の節句)にちなんだ資料を展示しています。お子様にもわかりやすい展示内容なので、ぜひご家族

でお越しください。

本展の主な展示資料をご案内します。「雛」にまつわる展示では、多様な雛人形や雛道具が並んでいます。なかでも目を引くのは、津軽家ゆかりの雛道具です。津軽家の家紋である杏葉牡丹紋の蒔絵が施された豪華絢爛な雛道具で、最後の弘前藩主であった12代津軽承昭が、明治後期にあつらえたとされています。



▲津軽家ゆかりの雛道具

次に注目の資料は、数ある雛人形のなかで最も大きい享保雛です。



▲江戸後期流行の享保雛

この雛人形は、江戸時代後期の作で、当時の町人のあいだで流行したも

のです。衣裳もとても豪華で、錦をふんだんに使って、どっしりと安定感のある姿は圧巻です。

かたや端午の節句の展示室では、段飾りの五月人形が眼に飛び込めます。これらの人形は、かつて弘前市内にあった弘前幼稚園で園児たちの節句をお祝いしていたものです。武者人形や鍾馗さま、そして鯉のぼりなど、大人が見ても懐かしさがこみ上げる人形ばかりです。



▲旧弘前幼稚園の五月人形

その他、実物の鎧兜、武者を描いた掛軸・折本など、端午の節句にちなんだ色々な資料が並んでいます。

3月1日に展覧会が始まると、さっそく市内外の各児童施設の皆さんが観に来てくれました。子供たちは初めて見る雛人形や甲冑に夢中で見入っていました。

まもなく桜シーズン、弘前公園の花見がてら、ぜひ企画展「雛と兜」もごらんください。

(「雛と兜」担当学芸員 三國)

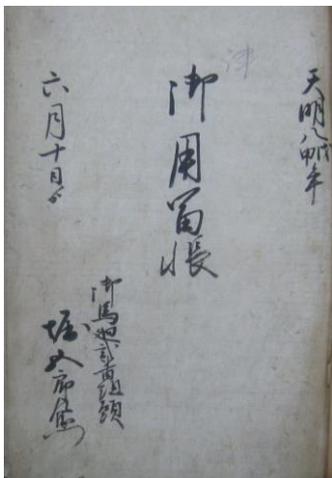
■歴史講座③「津軽家文書を追って」を開催しました

3月9日(土)に、今年度最後の歴史講座が開催されました。弘前大学の古川祐貴先生によるお話は、貴重な津軽家文書が「流出」してしまっているというちょっとショッキングなものでした。もちろん、博物館や図書館から流出しているわけではないのですが、インターネットオークションなどで古文書の出品が見られるなどの内容は、学芸員の私たちにとってもちょっと驚きでした。大切な歴史資料を守っていくことの重要性を再認識させていただきました。

(主査兼学芸員 小田桐)

■資料紹介:「津軽御用留記録」

年度末となりましたが、今回は今年度新たに当館資料となった古記録をご紹介します。資料名は「津軽御用留記録」です。



▲資料本体の表紙

資料には後補の外表紙があり(外表紙に「津軽御用留記録」という題箋があります)、さらにめくると資料本体の表紙が現れます。読んでみると、「天明八戊申年 御用留帳 六月十日^{より} 御馬廻式番組頭 堀五

郎左衛門」とあります。

この資料は、一言でいえば天明8年(1788)に弘前藩の役人によって書かれた業務日誌といえます。資料の詳細な内容や筆者の情報などは現在調査中です。ただ、表紙に名前がある堀五郎左衛門は寛延～明和期に藩の家老であった堀五郎左衛門利喬^{としたか}など藩の要職を務めた家柄の人であるとみられます。

今後調査や分析を進めることで、藩庁日記をはじめとした弘前藩に関わる史料と照合しつつ、当該期の藩政がさらに分かってくるものではないかと期待している一点です。

(主事兼学芸員 工藤)

■Fb&インスタ! ~3月編~

3月より、企画展4「雛と兜」が始まり、沢山の子供たちが見学に来てくれました。お家では見たことのない大きな雛人形や、雛道具、押絵などに興味津々の様子でした。

今回の企画展では、博物館で久しぶりに甲冑を展示しました。高岡の森弘前藩歴史館からお借りした甲冑を展示する際には、歴史館の学芸員にもお手伝いいただきました。ぜひ見に来てください。



▲2館の学芸員による展示作業

(主事 児玉)

■異動職員のご挨拶

新型コロナの感染拡大が始まった令和2年に配属となり、特別企画展の延期や臨時休館など、イレギュラーな事態への対応から始まった博物館勤務ですが、不慣れながらも、資料の展示やライティングといった、他ではできない経験をさせてもらいました。新年度からは学芸員も4人体制となります。1年先、2年先の展示を見据えた準備も進めていますので、これからの博物館にもご期待ください。

(主幹兼運営係長 高橋)

~~~~~

昨年4月に転任してきましたが、わずか1年での異動はとても残念です。博物館では津軽の歴史や文化に関する貴重な資料に接することができて、とても有意義な時間を過ごすことができました。4月からは高岡の森弘前藩歴史館での勤務となります。歴史館にも弘前藩の歴史に関する貴重な資料がございますので、是非一度ご来館ください。1年間大変お世話になりました。

(主事 佐藤)

~~~~~

博物館に来て4年、今まで全く関わる機会の無かった、歴史や美術に触れ、自分の中の価値観も変わったような気がします。広報担当として、ホームページやインスタグラムで展覧会情報などを発信してきましたが、過去の自分と同じように博物館に来たことのない、知らない人へ周知するのが難しくもあり、楽しかったです。(主事 児玉)